

4. 農業用水を確保せよ — せきを造る〔利水工事の例 1〕



明治時代の終わりごろ、池田町千代田にあった水田。
(「十勝国産業写真帖」北海道庁、明治44年《1911》)

(1) 米作りは開拓者の夢

十勝内陸開拓の始まりの一つとされる「晩成社」が
入植したのは、明治16年(1883)です。そのころから、
いろいろな人たちが米作りへのチャレンジをしました。

失敗の連続でしたが、明治26年(1893)十勝川の下流
部の水田で成功しました。

その後十勝全体に広がり、昭和4年(1929)には1万
ヘクタール以上の水田が作られました。

今の池田町にある千代田地区や利別地区にも、この
ころ多くの水田があり、十勝川からも水を引いていま
した。

(→ 水田と川 p 78)

(2) 水田に水を引けなくなる？

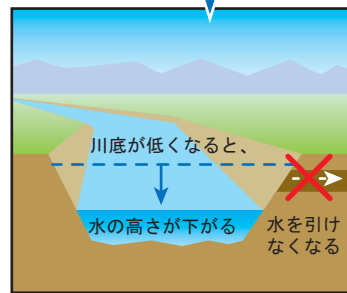
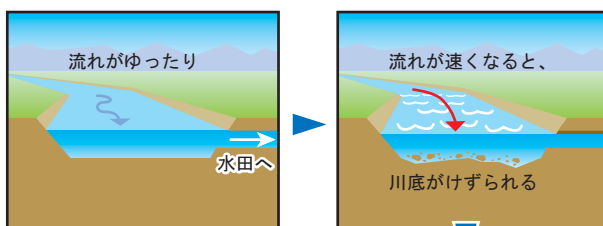
一方、自然のまま曲がりくねっていた十勝川は、明治、
大正と大きな洪水をくり返していました。

そこで、池田町の千代田から豊頃町の茂岩まで、十勝川
をまっすぐに流れやすくすることになりました。

(→ p 10「1. 十勝川大水害を防げ」)

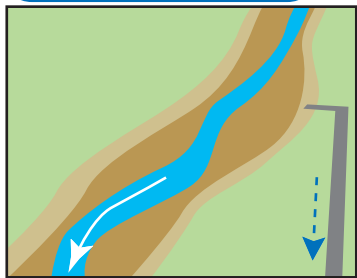
しかし、川の流れが良くなると流れが速くなります。す
ると川底がけずられやすくなって、川の水も低くなります。

十勝川をまっすぐにすることで、千代田の取水場所での
水が低くなることが予想されました。そうすると、水を水
田へ引くことができなくなります。

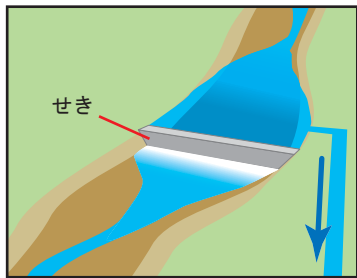


流れが速くなり、川底
がけずられることで、
水田への水が引けな
くなる。(図はイメージ)

せきの働き (イメージ図)

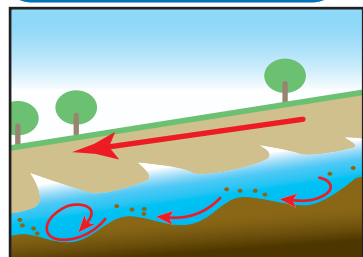


水の高さが下がると引けない。

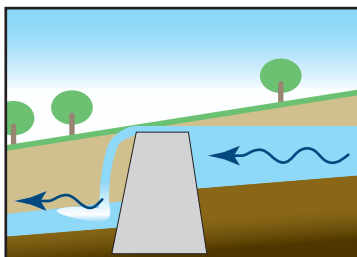


せきをつくと、水を高くできるので、引きやすい。

床止めの働き (イメージ図)



流れに勢がつくと、川底がけずら
れる。



水をせき止めると、流れが弱まり、
川底がけずられにくくなる。

(3) 十勝川に千代田堰堤を造ろう

そこで、十勝川の川幅いっぱいに「千代田
堰堤」を造ることになりました。

千代田堰堤には、2つの役目があります。
1つは、川をせき止めることで水面を高く
して水を引きやすくする「せき」の役目。

もう1つは、川の流れをゆるやかにするこ
とで川底をけずられにくくする「床止め」の
役目です。

※1 晩成社(ばんせいしゃ): 北海道開拓を目的とした農事会社。下帯広村(今の帯広市)に
明治16年(1883)入植した。

※2 ヘクタール(ha): 面積の単位で1ヘクタールは100m×100mの広さ。

※3 堰堤(えんてい): せき的一种で、大型で固定されたもの。比較的小さなダム。

川で行われた大きな工事

川に引かれた
ふたんの書き

川に引かれた
農業

川に引かれた
漁業

付録

